

いちのせき

協働ニュース

vol. **31**

2024年2月

わっしょい みんな で かつごう いちのせき!!

『地域協働体』って、どんな組織?

一関市における「地域協働体」は、各市民センターの区域内において、自治会や、地域のさまざまな団体など、その地域で暮らす人々が中心となって構成された団体で、各地域協働体で作成した「地域づくり計画」に基づいて、活動しています。

こうした取り組みは、一関市独自ではなく全国的に進められているもので、一般的には『地域運営組織 (RMO)』と呼ばれていますが、一関市では「地域協働体」と呼んでいます。

地域運営組織 = RMO

(Region Management Organization)

Region = 地域、地方

Management = 組織運営や経営管理

Organization = 組織

現在市内では、33の地域協働体が組織されています。「〇〇地区まちづくり協議会」や「〇〇地区振興会」などの名称で、各市民センターを拠点に地域づくりの活動に取り組んでいますが、なぜ地域協働体が設立されたのでしょうか?

地域では、人口減少・少子高齢化などにより、集落機能を

果たしていた自治会や地域の団体の担い手も不足し、活動の継続が難しくなっているほか、特定の人がいくつも役職を掛け持ちせざるを得ないため、一部の住民の負担が増しているなどの 課題を抱えています。

こうした、小さい単位では難しい事柄に、地域のみんなで力を合わせて解決していこうとするための組織が「地域協働体」で、少子高齢化が進む中でも、今住んでいる地域に安心して住み続けられるように、各地域に組織されてきました。※1

地域協働体は、自治会よりも大きなエリアで、地縁でつながるさまざまな人や団体、子供から高齢者まで、年齢や性別に捉われない全ての地域住民が連携し、自治会だけでは難しい部分の集落機能を『補完する役割』を持っているのです。

※1 令和6年1月1日現在、33地域協働体が設立。

*各地域の地域協働体では、いろいろな取り組みを行っています。隣近所、お友達などと声を掛け合って参加してみましょう。



あ



第2次 −関市協働基本計画

基本計画の目指すまちの姿

「協働の仕組みが実践される住み良い地域社会を創る」

本計画は、全ての人が地域を支え、創る一員として行動することにより「協働の仕組みが実践される住み良い地域社会」を目指します。

協働の考え方

協働とは「協働の主体である市民組織、企業、行政がお互いの立場を尊重し、公共的、公益的な活動を継続的な話し合いと合意により、協力して行動すること」をいいます。

また、一関市では、協働のスタイルとなる行動基準を次の3つとします。

- (1) 対等の立場で相互の役割と責任を果たすこと。
- (2) 地域課題を解決するため、継続して話し合うこと。
- (3) 地域の良さを尊重し、地域コミュニティを重視したまちづくりを推進すること。

協働の取り組みの基本方針

地域を取り巻く現状や、これまでの取り組みの成果と課題を踏まえ、以下の3点を具体的な取り組み方策に掲げ、各種事業に取り組みます。



1 協働のための人づくり



2 協働のための環境づくり



3 協働のための仕組みづくり

協働ニュース「輪っしょい!」では、基本方針①~③の取り組み方策について紹介します。

1 協働のための人づくりの取り組み事例

現状 課題

高齢化や人口減少の進行により、地域づくりに参加する住民の減少や支える側の負担の増加が予想されることから、地域運営を担う人材の育成・確保の取り組みが必要です。

中通集落公民館·日花里の郷日形(花泉) 『わな猟勉強会から、野生動物による 農作物への被害減少へ』

市内各地で獣害が増加していますが、日形地区でも鹿の被害に加え、令和4年頃からイノシシによる農作物被害が発生するようになってきました。そうした状況を受け、地域でわな猟を行って被害の軽減を図ろうと、中通集落公民館は令和5年5月、日形在住の西磐猟友会会員・小野寺安春氏を講師に「わな猟勉強会」を企画し、「くくりわな」についての勉強会を開催しました。

企画・開催にあたり、中通集落以外へも参加を呼びかけようと日花里の郷日形(地域協働体)に後援を依頼し、連携して周知などを行いました。集落の内外から15人が参加し、狩猟のルールなどの基礎知識、くくりわなの道具や技術について学びました。

勉強会をきっかけに、狩猟免許に興味を持った参加者へ免 許取得の流れを説明するなどのフォローを行ったことで、参 加者のうち5人がわな猟の狩猟免許試験を受験し合格。合格者らで「狩職人」という団体を立ち上げ、野生動物による農作物への被害減少に取り組み始めました。

企画した中通集落公民館長の干葉和彦さんは「集落で獣害が身近に感じられるようになり、地域で『わな猟』を行えば被害が減るのではと思い、地域の皆さんに声をかけました。現在はベテランの方を先生に、5人の仲間で捕獲した都度集まって勉強会をしたり、ジビエ料理を味わったりして活動しています。楽しく継続していければいいと思っていますし、もっと仲間を増やしたいです」と、今後の展望を語りました。





わな猟勉強会の様子



2 協働のための環境づくりの取り組み事例

現状 課題

地域での人のつながりや交流が薄くなってきていて、市民やグループ・団体などの相互理解も十分とは言えないことから、住民や市民活動団体等の交流の機会・環境づくりが必要です。

真柴まちづくり協議会(一関) 『真柴地区PTA連合会を発足』

真柴地区内には、小学校と中学校合わせて5つのPTA組織があり、それぞれで活動を行ってきましたが、少子化により年々PTAの規模が縮小し、単独での活動が困難になっていました。

各PTA同士での交流もない状況だったことから、真柴まちづくり協議会の諸団体交流プロジェクト(地域内の各種団体が集まり、それぞれの団体の情報交換を行う場)で各PTAの代表と意見交換したところ、地区内5つの地区PTAと、地域のつながりが大切だとの声があり、令和4年4月1日、真柴地区内5つのPTA組織による真柴地区PTA連合会(以下:連合会)を発足。5月29日に発足式を開催し、連合会としての活動を開始しました。

連合会が力を発揮したのは、真柴まちづくり協議会、真柴市民センターと連携し、初めて開催した「真柴サマーフェスティバル2022」です。コロナ禍ではあったものの、連合会の主導で子どもたちの思い出づくり、民区や自治会の参加・連携(出店)を目的とした、地域住民参加型の夏祭りを盛大

に開催しました。当日は、予想をはるかに上回る400人以 上が来場し、今後の活動への大きな自信につながりました。

連合会発足前から伴走してきた真柴市民センター所長の小野寺徹さんは「平成30年4月頃から、地区PTA単独での活動が危機的な様子を見ていて、真柴地区内のPTAを一つにできないだろうかと考えていました。真柴まちづくり協議会へ働きかけ、PTAの皆さんと協議を重ねたことで、真柴地区PTA連合会の発足を実現することができました」と振り返りました。



5つのPTA組織の力を合わせて活動していきます



3 協働のための仕組みづくりの取り組み事例

現状

課題

少子・高齢化と人口減少や住民意識の多様化などにより、基礎的コミュニティの弱体化が生じており、地域協働によるコミュニティ機能の再生充実と地域力の強化が求められています。

室根まちづくり協議会(室根) 『出張!百歳体操と情報交換会』

室根まちづくり協議会では、令和3年4月に改訂した地域づくり計画の中で、5つの地区ごとに市を交えた情報交換会を実施することとし、令和3年以降、各地区で情報交換会を開催してきました。

情報交換会は、室根地域全体と各地区の現状と課題を把握し、問題の解決を目指すために開催してきましたが、参加者は自治会長などの関係者にとどまるなど、地域住民が広く参加しているとは言えない状況でした。

そこで、令和5年度は視点を変え、以前情報交換会で要望のあった、各地区での出張事業に併せて情報交換会を実施することとし、地域内全戸ヘチラシを配布。生活福祉部会内の健康増進グループが実施する「出張!百歳体操」で健康増進を図るとともに、後半はお茶っこを飲みながら情報交換を行いました。

各地区10人ほどの参加でしたが、従来の情報交換会とは 参加者の顔触れも大きく異なり、出向いた室根まちづくり協 議会の事務局職員も、地域の人を知る機会となりました。

また、室根図書館と連携し各会場で出張図書館も併設。 さまざまなジャンルの本が準備されたことに加え、自治会長 に返却の代行を依頼したことで、多くの貸し出しにつながる とともに、住民の興味(ニーズ)も把握することができ、会話 のきっかけも生まれました。



体操をして、心も体もほぐしてから お茶っこのみ

室根まちづくり協議会事務局長の小山賢一さんは「今回は65歳以上の住民に限定した情報交換会としたが、切り口を変えることで他の年齢層とも情報交換できるよう検討していきたい」と、今回の取り組みに一定の成果を感じていました。



協働で進める 「元気な地域づくり事業」

一関市の協働の取り組みの一つに、「元気な地域づくり事業」があります。

元気な地域づくり事業は、地域の住民、各種団体等と市が、お互いの得意分野、専門分野等の知識や経験を活かし、協働で、地域毎に取り組む事業です。

地域住民と行政がお互いに協力し、地域の魅力や資源を活用したさまざまな事業を展開することで、地域特性を活かした特色ある地域づくり、活力ある地域づくりを目指します。

事業紹介

~元気な地域づくり事業 (一関地域)紹介~

「いちのせき雪上楽園2024in真湯温泉」

観光物産課と、一般社団法人一関ネイチャーセンター、一関温泉郷協議会などが協働で取り組む「いちのせき雪上楽園2024in真湯温泉」は、元気な地域づくり事業を活用し、冬の栗駒山麓地域の魅力である積雪を活かしたイベントスペースを開設します。



昨年好評を博した雪上楽園が、今年も期間限定でオープン!

さまざまなスノーアクティビティやキッチンカーも集合する真湯温泉へ、冬の思い出づくりに訪れて みてはいかがでしょうか。

開催期間: 充分な積雪となり、オープン可能となった日

~2月25日 🗎 の土・日・祝日

*オープン情報は、雪上楽園 HP等ををご確認ください。

時 間: 9:15~16:00(最終入場15:30)

遊び場: 特大スノースライダー、キッズスライダー、巨大な

雪の迷路、雪遊び用フリースペース



テニスコート4面の広さの雪の迷路

雪上楽園 公式 H P



一関市公式 観光サイト 「いち旅!」



* 積雪状況、荒天時など、状況により開催時間等が変更になる場合があります

*最新情報は、上記の雪上楽園公式HPを検索





発行/岩手県一関市 まちづくり推進部まちづくり推進課

〒021-8501 岩手県一関市竹山町7番2号 電話 0191-21-2111 ホームページ https://www.city.ichinoseki.iwate.jp

ー関市協働推進ホームページ 輪っしょい! WEB▶ホームページ https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/kyodo/

